

13. 食道表在癌浸潤先進部における簇出はリンパ節転移と相関する

病理学 (人体分子), 内科学 (消化器)

知花洋子, 藤盛孝博, 平石秀幸, 寺野 彰

【目的】食道表在癌のリンパ節転移予測因子として確定的な因子は明らかにされていない。今回我々は食道表在癌のリンパ節転移予測因子として癌浸潤先進部における Tumor cell dissociation (TCD) を検討した。

【方法】外科的切除を施行された食道表在癌 33 例を深達度により 4 群に分類した。A 群 (m1, m2) 5 例, B 群 (m3, sm1) 10 例, C 群 (sm2) 11 例, D 群 (sm3) 7 例に分類した。明らかな粘膜基底膜を破壊し浸潤した領域の最大断面の水平距離 (Greatest dimension; GD) と, TCD の水平距離を計測し, TCD-score として TCD/GD (%) で示し, リンパ節転移との相関をみた。あわせて TCD 領域における E-cadherin の発現を粘膜内病巣と連続した領域 (successional area of mucosal invasive carcinoma; SAM) と比較検討した。

【結果】A 群は全例, TCD-score は 10 % 以下で転移症例はなかった。B 群は 1 例 (TCD-score は 51.3 %) に転移を認めた。非転移群は 9 例で TCD score は 30 % 以下だった。C 群では, 4 例に転移を認め TCD-score はいずれも 65 % 以上で 3 例はほぼ 100 % だった。非転移群は 7 例で TCD-score は 30 % 以下だった。転移群は非転移群に比べて TCD-score は有意に高値を示した ($p < 0.001$)。D 群は転移群は 4 例で TCD はいずれも 70 % 以上で 3 例は 100 % だった。非転移群では TCD-score は様々な値を示した。E-cadherin 染色では SAM では発現を示すものの TCD においては有意に発現が減弱した ($p < 0.01$)。

【結論】TCD は食道表在癌の初期浸潤様式として重要であり, TCD-score はリンパ節転移と相関した。また, 免疫組織学的には E-cadherin の発現が SAM から TCD において発現が減弱した。この現象は主な癌胞巣から逸脱する癌組織の解離にこれら接着因子の減弱が強く関与しているためと思われた。

14. 胃癌における Heat Shock Protein (Hsp) 27, Hsp70 発現の免疫組織化学的検討

第一外科学

小野寺真一, 宮地和人, 依田紀仁, 根本一宏, 佐々木欣郎, 砂川正勝

【目的】胃癌における Heat Shock Proteins (HSPs) の発現と臨床病理学的諸因子との関連について検討した。

【対象・方法】当科で手術を施行した胃癌 68 症例を対象とし, 胃癌組織および背景非癌部組織における Hsp27, Hsp70 の発現と臨床病理学的諸因子との関連について抗 HSP 抗体を用いて免疫組織化学的に検討した。

【結果】Hsp27, Hsp70 とも非癌部組織より癌組織で有意に高い発現率を示した ($p < 0.05$)。臨床病理学的諸因子と Hsp27 の検討では分化型癌, 肝転移陽性例, 静脈侵襲陽性例, 進行癌で発現率が高く有意差を認めた ($p < 0.05$) が, Hsp70 の検討では臨床病理学的因子との関連は認められなかった。

【結語】Hsp27, Hsp70 は非癌部組織に比べ癌組織で過剰発現していた。とくに Hsp27 は分化型の進行癌で発現亢進しており, 癌細胞の増殖, 進展との関連が示唆された。